

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

レポートや論文の書き方を指導します。授業担当者が過去に中学・高校の教員であった実績を生かして、慣用句・表記・品詞の使い方・表現技術など文章を書くための基礎から文の作成をへて、段落構成・導入・事例のあげ方・結論といった文章全体の組み立て、文章の流れ、そして文章のマナーや読み手に伝わる書き方に至るまで、文章を書くための様々な知識や技術について指導します。

短作文・長作文作成をへて、最終的には資料を参考に自分の意見も主張しながら論文を書く指導を行います。どのようなテーマであっても、読み手に伝えられるようにわかりやすく、なおかつ自分の意見を入れて書くことを目標として指導します。

「日本語の運用」に接続する形で授業を行いますので、春期の「日本語の運用」履修者の受講が望ましいです。教育者・保育者養成を視野に入れておりますので、子ども発達学科の学生の受講が望ましいです。

授業計画

第 1 回	書くこと①—国語表記の基準、適切な表現（高等学校国語の復習）
第 2 回	書くこと②—修辞法（高等学校国語の復習）
第 3 回	書くこと③—待遇（敬語）表現・文末表現（高等学校国語の復習）
第 4 回	書くこと④—推敲、一文を書く（高等学校国語の復習）
第 5 回	書くこと⑤—一文を書く、文と文をつなぐ（高等学校国語の復習）
第 6 回	書くこと⑥—主題文をつくる（高等学校国語の復習）
第 7 回	書くこと⑦—材料を集める（高等学校国語の復習）
第 8 回	書くこと⑧—構成を考える（高等学校国語の復習）
第 9 回	書くこと⑨—短作文 1—身近なテーマから
第 10 回	書くこと⑩—短作文 2—論理的な文
第 11 回	書くこと⑪—短作文 3—教育をテーマとして
第 12 回	論文①—言葉について
第 13 回	論文②—時事問題についての論文 1—現代の社会状況について
第 14 回	論文③—時事問題についての論文 2—現代の国際状況について
第 15 回	論文④—時事問題についての論文 3—教育をテーマとして
第 16 回	総まとめ（期末試験）

到達目標

- ①文章を書くことへの抵抗感をなくします。
- ②文章表現の基礎を学習し、表現力を身につけることを目標とします。
- ③あるテーマについて自分で調べ、調べたことをまとめ、自分の考えを入れながら、論理的な文章を書く力をつけることを目標とします。

履修上の注意

文章、そして論文を書く力をつけたいという強い意志を持って授業に臨んでください。最終的には時事問題等について論文を書きますので、常に自分で考える姿勢で受講し、また、社会や教育の動きには興味関心を持って臨んでください。提出物が出ていなければ、評価できません。

遅刻は 20 分以内までとし、遅刻 3 回で欠席 1 回とします。

「日本語の運用」に継続する形で授業を行いますので、「日本語の運用」履修者の受講が望ましいです。教育者・保育者養成を視野に入れておりますので、子ども発達学科の学生の受講が望ましいです。

予習・復習

テキスト・論文等の課題を出しますので、必ず仕上げて提出してください。

評価方法

授業態度・発言・提出物（テキスト、論文）・コメント・期末試験（期末レポート）等で総合的に評価します。なかでも、テキスト・論文は評価の比重が高いので、注意してください。

期末試験（期末レポート）30%、課題 30%、論文 20%、コメント用紙 10%、受講態度 10%

テキスト

資料・テキストは、授業内で指示します。

授業概要

日本語の文章の書き方を基礎から学ぶ。毎回、辞書を片手に、ワークシートや作文などの課題に授業中に取り組む。作文は添削したものを次回以降の授業で返却する。論理的かつ学術的な文章を書けるようになることを大きな目標として、日本語表記のルールなどの基礎から学ぶ。

本授業は1年生の教養演習を終えている、2年生以上の学生の受講を想定しているが、1年生も逸早く受講することは可能である。また、人間文化学科以外の学生も受講することができる。

授業計画

第1回	ガイダンス、アカデミックライティングとは
第2回	仮名遣いなどのルール
第3回	句読点を使う
第4回	熟語などの難しい表現
第5回	漢字を使い分ける
第6回	表記を見やすくする
第7回	敬語を使う
第8回	手紙文を書く
第9回	Eメールの文章を書く
第10回	曖昧な文を書かない
第11回	語順を分かりやすくする
第12回	無用に長い文を書かない
第13回	構成の不自然な文を書かない
第14回	適切な接続表現を選ぶ
第15回	先に結論から述べる方法
第16回	まとめ①（試験日は通常授業実施）

到達目標

- ・大学生として必要な論理的かつ学術的な文章を書く能力の基礎を身につけることができる。

履修上の注意

遅刻・欠席はしないようにしてほしい。授業では毎回、課題（ワークシート、作文）に取り組む。授業内容は積み上げていく方式なので、欠席すると次回の授業内容についていけなくなる恐れがある。国語辞書（紙の辞書でも電子辞書でもよい）があれば必要に応じて持参すること（無ければ持参不要）。

予習・復習

予習は、前回の授業内容を振り返ること。復習は、返却された作文を見直すこと。

評価方法

課題（ワークシート、作文）（50パーセント）、その他受講態度等（50パーセント）で評価する。

テキスト

教科書は使用しない。その都度、授業資料を配付するので、資料をなくさないように管理すること。